

# 研究型大学を目指して

繆 瑩 (Ying MIAO)

システム情報工学研究科助教授

## 1. はじめに

カナダMontrealにあるConcordia大学から筑波大学に来て、今年で8年目になりました。この7年強の間に、筑波大学に関するイメージが大分変わりました。研究型大学を目指している筑波大学の一教員としての大学に対する期待などを書かせていただきたいと思います。思い違いがありましたら、ご容赦ください。

## 2. 筑波大学に関するイメージの変化

私は高校生の時(七十年代末)に、筑波大学の名前を既に中国で聞いていました。筑波研究学園都市の教育・研究の中核として、筑波大学は中国でも広く知られていました。筑波大学は日本中だけでなく世界中でも有名な大学であるというイメージがあり、それは1994年に広島大学に留学するまで変わりませんでした。しかし、日本に来てから博士の学位を取るまでの3年間に、

東京大学と京都大学などが筑波大学よりレベルが上であることが分かりました。更に、1998年に筑波大学に就任した後、悲しい事実が次々と分かってきました。その中でも特に、獲得した科学研究費補助金の総額が何年間も広島大学より少なく、今まで採択された21世紀COEプログラムの数も神戸大学、広島大学より少ないことにショックを受けました。筑波大学は二、三十年前に海外でその名を広め、名声を高めました。しかし今、「有名無実」と言ったら、もちろん大げさですが、そのような気が少ししないでもないです。

## 3. 研究型大学の教員

世界中の大学は、大まかに、教育型大学と研究型大学に分けられています。教育型大学は基本的に学部生教育に重心を置いています。研究型大学は大学院生の教育や研究にもっと力を注いでいます。筑波大学

は法人化された後、研究型大学を目指すと言う方針が決まりました。

それからは、研究を中心として他の研究型大学と激しく競争していくということは言うまでもありません。大学のビジネス・モデルは芸能プロダクションと似た所があり、マネージャーやプロデューサーも大事ですが、タレント（研究者）で勝負が決まります。独創的なアイデアを持つ研究の実力が高く、人格的な魅力が溢れる教員が多ければ多いほど、日本国内だけでなく世界中の大学院生や研究者が集まるのではないのでしょうか。大相撲の言葉を使うと、専任の「親方」ではなく、「親方」を兼任する強い「現役選手」である大学教員のほうが、大学に対して、もっと貴重な財産ではないのでしょうか。良い研究者は必ずしも良い教育者であるとは言い切れませんが、良い教育者は良い研究者でなければならないのです。

筑波大学の格を更に上げるためには、我々教育者が自分の研究にもっと熱中したほうが良いのではないのでしょうか。

#### 4. 研究能力がある若い人を獲得せよ

大学院の中心は大学院生です。大学院教育サービスの対象でもあるし、研究活動にも不可欠な生気に満ち活力に溢れている新手でもあります。大学の競争の半分は、将来性がある質の良い大学院生の獲得である

と言っても良いかもしれません。

日本の現状を見ると、法人化された後、各大学の大学院生の定員確保がどんどん難しくなっていて、皆精一杯に定員確保のために頑張っています。日本の若い人口が減少する中、優秀な大学生は殆ど東京大学や京都大学など有名な大学の大学院へ進学するでしょうから、大学院生を獲得するための競争はますます激しくなると思います。

現実的に、一つ可能な解決方法は、優秀な留学生をたくさん受け入れることです。これはアメリカ、カナダ、ヨーロッパなどの有名な大学の成功した例からも言えると思います。どのように優秀な留学生を獲得するのか、大学の管理職だけでなく、各教員も真剣に考えなければいけないでしょう。

中国と韓国をはじめとしたアジア諸国からの留学生が多いのが現状です。アジアは、日本より豊かな国が少ないので、優秀な留学生に対して実情に即した効果的な経済援助を行わないと、彼らはさらにアメリカやカナダやヨーロッパの大学に行ってしまうでしょう。一般的に言うと、日本語はアジア諸国の大学では第一外国語ではありませんから、日本の大学に留学することはアジア諸国の学生の第一選択肢ではないと思います。奨学金や住居の斡旋など留学生政策を更に改善しないと、優秀な留学生を獲得するのはますます難しくなるのではないで

しょうか。

この小文を書くために、私は何人かの留学生と筑波大学の留学政策について意見交換を少し行いました。ここで検討・改善してもらえるとよいのではないかという意見の一部を述べさせていただきます。

ア. 教員個人情報の発信：各教員の教育・研究の紹介文を統一した形で、個人や各専攻ではなく、学校全体としてwebで提供できないでしょうか。留学生が指導教官を選ぶ時に、統一した分かり易い紹介文が大変参考になります。

イ. 奨学金：奨学金を支給するかどうかについて、留学生が筑波大学に来る前の早い段階で決定することは無理でしょうか。奨学金をもらえないと、外国の準留学生がすごく不安で、筑波大学へ留学する計画を中止する例も少なくありません。

ウ. 出願検定料：検定料を支払うために、日本の郵便局で9,800円の普通為替を作成して提出しなければなりません。日本に友達や親類がいなければなかなか難しいことです。友達や親戚などが日本にいても、海外へ送信したり、海外から筑波大学に提出したり、費用も時間もかかります。もっと良い方法がないでしょうか。

外国から直接9,800円の送金を受け付けることはできないでしょうか。

エ. 健康診断書：先程も言及しましたが、日本語は英語のように世界中に普及してはいません。外国のお医者さんは日本語を読んでも殆ど分かりません。もっと詳しい英語の説明を提供できないでしょうか。

オ. 宿舎：担当の方は留学生に対しては親切ですが、宿舎に入居できるか否かについて、留学する前にはっきりしたほうが留学生は安心できます。

ポテンシャルがある若い外国人研究者をたくさん招聘することも大学を活性化させるためのもう一つの方法だと考えます。筑波大学の研究者との実質的な討議・意見交換・講演等を通じて、関係分野の研究の発展に寄与することが期待できます。若い外国人研究者のための旅費や滞在費をもっと合理的効果的に使えるならば、外国人研究者を招聘しやすくなり、国際交流も更に盛んになるでしょう。例えば、大学側が基金を設けて、博士学位を取ったばかりの外国人研究者をポスドクとして多く雇ったり、3ヶ月や半年間の訪問研究者を多く招聘したらどうでしょうか。

## 5. おわりに

法人化と同時に進行した大学院中心への

制度移行の際に、我々教員は自分の従来の考え方をもう一度整理する必要があると考えています。大学院の教育・研究にもっと力を注いで、優れた人材や研究成果を世に送ることができればと願っています。今後ますますの筑波大学の発展を祈っています。

PS：システム情報工学研究科の藤原良叔教授、及び留学生の張小雅さん、張鶯鶯さん、姚偉烽さんのご協力に感謝します。

(ミャオ イン/社会システム・マネジメント)